

天敵を利用したイチゴのハダニ類の防除

～2種のカブリダニと殺ダニ剤の併用で効果が安定～

農業試験場

イチゴ栽培ではハダニ類の防除に苦慮している。薬剤抵抗性の発達により、十分な防除効果が得られる殺ダニ剤が極めて少ないためである。そこで、天敵を利用したハダニ類の防除効果を現地で実証した。

イチゴの害虫ハダニ類



イチゴのハダニ類に使用できる天敵製剤



①チリカブリダニ剤
(以下、チリ)
攻撃型

ハダニ類だけを食べる。
捕食能力が優れる。

②ミヤコカブリダニ剤
(以下、ミヤコ)
待ち伏せ型

ハダニ類がいないときは花粉などを餌として生活できる。ハダニ類が発生するとハダニ類を食べる。



天敵カブリダニの放飼状況

イチゴの株上に放飼されたカブリダニ類は葉裏に生息するハダニ類を探索し、ハダニの成虫、若虫、幼虫、卵を捕食する。



チリカブリダニ



ミヤコカブリダニ

現地ほ場における天敵導入事例

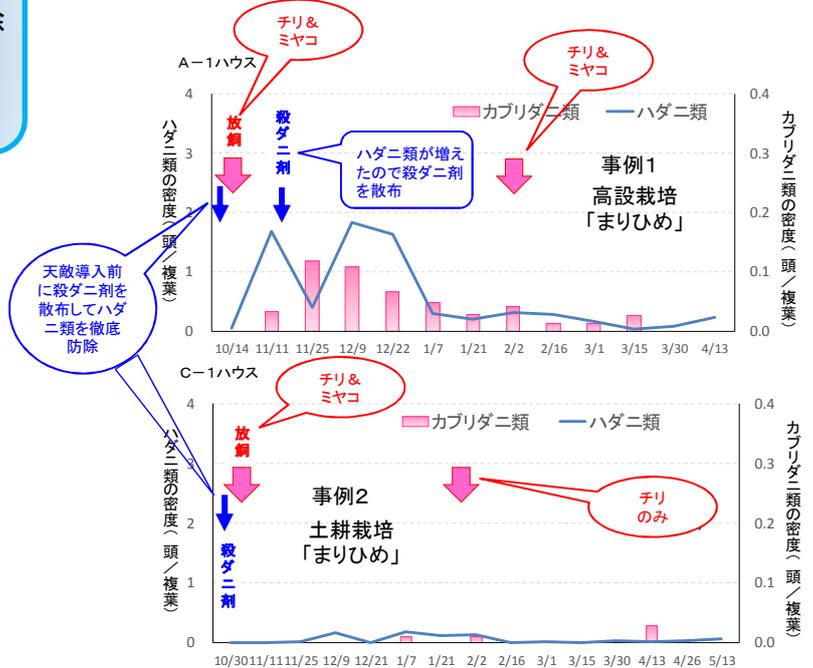


図1. イチゴ栽培ハウスにおける2種カブリダニ同時放飼によるハダニ類の防除効果(2015～2016年)

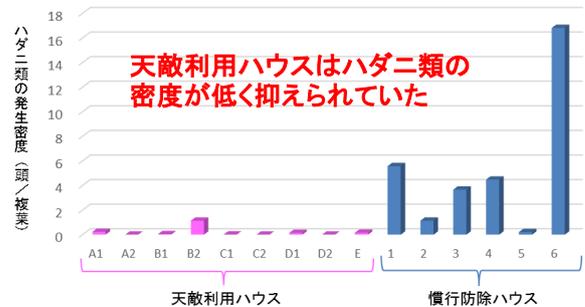


図2. 天敵利用ハウスと慣行防除ハウスにおけるハダニ類発生状況の比較(2016年4月中旬)

天敵を安定的に利用するには、捕食能力に優れたチリと、定着率が高いミヤコを同時に放飼することがポイントである。天敵導入前に殺ダニ剤を散布してハダニ類を徹底防除することも重要。放飼後にハダニ類の密度が高まった場合は選択性殺ダニ剤(カブリダニ類に影響が小さい殺ダニ剤)を散布するとよい。ハダニ類とカブリダニ類の生息数のバランスが保たれれば、ハダニ類密度抑制効果は安定する。カブリダニ類への影響が大きい殺虫剤や殺菌剤を使用しないことも大切である。